

## 石川関西支社運輸営業部長は、 「添乗」を語る資格なし！！

去る4月25日でJR宝塚線(福知山線)脱線事故からまる3年を迎えました。マスコミは、JR西日本会社の事故後の対応に関して『運転士が運転に集中できなかった背景に、組織的な問題点が指摘されている。「運転士がたるんでいる」で片付けず、原因を総合的に分析し、対策をとるべきだとの考え方が広まりつつある。(4/25朝日新聞)』と批判的な報道をしています。

私たちの職場では4月25日、「狙い撃ち添乗」で知られる石川関西支社運輸営業部長が、またしても東海労組合員が担当し名古屋駅から日比津に入庫する入換え列車(入539A)に添乗してきました。

列車に乗り込んだ石川部長は、発車して間もなく、いきなり組合員に対して「喚呼の声が小さい！入換4原則の動作をやれ！入換3原則の動作をやれ！」と矢継ぎ早に動作の強要をしてきました。営業部長にいちいち動作を指示されなくても、運転士はひとつひとつ確認して運転を行う手順があるので。皆さん！こんな常識のない添乗をどう思いますか！

石川部長は恣意的に添乗を行い、信号に頼らない入換中という運転士の注意力のみで運転している中で、運転士が精神的に集中できない状態を自ら作り出したのです。こんな危険な行為はやめるべきです！

その後も試問を繰り返し、構内担当者との打ち合わせの際に通話の最後に「(サヨナラ)を言わなかったことは問題だ！」と組合員を脅し、「列車当直には私が言うておくから、あなたは検修当直にその旨を言いなさい！」と指示しました。組合員が、点呼の際に当直助役に添乗の報告をしました。当直助役は、何の事だかさっぱり分かって無いようでした。

また、入庫後の歩行の際にも石川部長は、「職場の掲示の内容を言え！」「その事象に対する対策を言え！」と質問を繰り返し、「大二輸に帰ったら指導科長の所に行って指導を受けるように！」と繰り返し言ってきたのです。

以上の様に石川部長は、入換中の運転士に対して動作を強要したり、精神的プレッシャーを掛け続けるという運行上危険な行為を行いました。

## 繰り返される石川部長の危険行為に対して強く抗議する！